重点（１）授業の充実

※R7「下北の教育」（案）

一人一人のこどもが、各教科及び総合的な学習の時間等において、確かな学力を身に付けることができるよう、目指す資質・能力を明確にするとともに、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

実　践　事　項

★は、特に力点を置いて取り組んでいただきたい実践事項

１　単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通した授業づくりのための指導計画の作成及び指導と評価の一体化

・各教科等の目標を達成するための年間指導計画を整備し、有効活用する。
・単元で育成を目指す資質・能力を明確にした単元の指導計画を作成する。
・「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を行う場面や方法を精選し、評価することで指導と評価の一体化を図る。
★**「おおむね満足できる」状況（Ｂ）を具体的に想定し、授業で適切に見取り、授業改善に生かす。**　【「おおむね満足できる」状況（Ｂ）の設定手順については※参照】

２　「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養に向けた教材研究の深化

・「知識及び技能」の習得に向けた教材研究の深化
　→児童生徒が知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新たな技能を既習の技能等と関連付けたりして、他の学習や生活に活用できるようにするための研究を進める。
・「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けた教材研究の深化
　→知識及び技能を活用し課題を解決するために、問題発見・解決・振り返りまでの過程、情報を基にした自己表現と他者との意見交換による考えを形成する過程、思いや考えを基に価値を創造する過程の３つを重視しながら、各教科等の特質に応じた指導方法や学習形態を工夫しながら研究を進める。
・「学びに向かう力、人間性等」の涵養に向けた教材研究の深化
　→知識及び技能の獲得や思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行い、自らの学習を調整しようとする態度を養うことができるよう研究を進める。

３　「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくり

（１）問題解決的な学習を重視し、１単位時間の指導に当たっては、次のような取組を設定し指導方法の工夫をする。
・学習活動の目的や手立て、ゴールを明確にし、児童生徒に必然性のある課題を設定する。
・全ての児童生徒に自身の考えをもたせる工夫をし、多様な考えに触れ、新たな気付きや考えを深める問題解決の場を設ける。
・児童生徒が考えを表現し、成長や変容を振り返る場を設定する。
・児童生徒の学びの姿を視点とした評価を積み重ねる。

（２）「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行う。
①主体的な学びの視点
　→学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

②対話的な学びの視点
→児童生徒の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
③深い学びの視点
→習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

（３）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
①「個別最適な学び」の推進
→児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う「指導の個別化」と、教師が児童生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し、児童生徒自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」を実施できるよう指導を工夫する。
②「協働的な学び」の推進
→「個別最適な学び」が「孤立した学び」 に陥らないよう、探究的な学習や体験活動などを通じて、多様な他者と協働し、お互いの感性や考え方等に触れ、刺激し合うことを大切にした学びが実施できるよう指導を工夫する。
③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
→「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的な学びとなるよう充実を図る。

４　各教科等の特質に応じた体験活動を重視した指導の工夫及びこどもの学びを支援する学習環境と学習活動の充実

・児童生徒が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、体験活動を体系的・継続的に実施する。
・学校図書館を、各教科等の様々な授業で「学習センター」「情報センター」として計画的・継続的に利活用が図られるよう環境を整備する。
・ＩＣＴを日常的に活用できる環境を整え、手段として活用させるようにし、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に生かす。

※「おおむね満足できる」状況（Ｂ）の設定手順
（「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」より）
①単元（題材）の目標を作成する。
②単元（題材）の評価規準を作成する。
【①、②については、学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。また、児童生徒の実態、前単元（前題材）までの学習状況等を踏まえて作成する。】
③「指導と評価の計画」を作成する。
【①、②を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画し、どのような評価資料（児童生徒の反応やノート、ワークシート、作品、パフォーマンスなど）を基に、「おおむね満足できる状況（Ｂ）と評価するかを考えて設定する。また、「努力を要する」状況（Ｃ）への手立て等も考えておく。】